



## 東京部会(第119回)

日時: 2020年9月5日(土) 15:00 - 17:10

場所: Zoomによるウェブ会議

参加者: 26名参加

(1)今回は、大阪部会の先生方も参加し、場所の制約を越えたウェブ会議となった。また、はじめて参加される先生も二人いて、まず自己紹介を行なった。

(2)コロナ禍における非対面授業の実践報告を4名の先生から受けた。

① 杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)から、「休校下の自由課題から得られた問い」の報告を受けた。

- ・コロナ休校中に生徒に出した課題「マスク配付の評価」、「緊急事態宣言の評価」に、生徒が寄せた文章のなかから、問いを抽出した取組みの紹介である。
- ・「マスク」に関しては、なぜ466億円もかけて国民全員に配付したのか、優先順位をつけて配付しないのはなぜか、もっと他に優先順位のある政策があったのではないかと、という問いが抽出されたとのことである。
- ・「緊急事態宣言」では、外出禁止がお願いだけでできる国民性とは何か、なぜ外国のようにロックダウンをしないのか、宣言によって増えた倒産や失業者をカバーするのか、という問いが抽出されたとのことである。
- ・現在、通常の授業を開始しているが、生徒が出したこれらの問いを、これからの授業につなげることが課題であるという報告であった。
- ・質疑では、生徒の回答の根拠となったデータや情報は何か?(NHKのサイトが多かった)、この問い以外の生徒の回答の特徴は?(生活圏で考えたものが多い)などが出された。
- ・意見交換では、生徒の問いを、議論にするとしたらどうやって生徒の議論を回収するのか、調べばなしでは中途半端になってしまうのではという意見がでた。
- ・参加者からは、小学校ではあたりまえの単元方式が中高ではなかなか取り入れられないとしても、総合学習のなかで取組んで一つのテーマを追究することもよいのではという意見もあった。それに対して、一つのテーマを掘り下げることも大事だが、バイキング方式でもいいから、考え続けることが重要であり、社会って面白いかもと感じて教科書を読む生徒ができればよいと思っているとの杉田先生からの回答があった。
- ・また、多様な意見が出るのは良いとしても、その意見がどんな情報ベースから来ているのかをきちんとわかって意見を述べる、判断させることが重要になるという指摘もされた。

②杉浦光紀先生(都立井草高等学校)から「ウェブ課題の工夫から今後の授業づくりへ」の報告をうけた。

- ・これは、休業中のオンライン授業の高校2年生「倫理」での実践の報告である。
- ・オンライン授業の第4回目の「「大人」「子ども」を巡る状況」というテーマ部分がとりあげられ、ppによる授業内容の解説、ウェブで提出する課題の説明、自宅での生徒の取組み、googleフォームでの提出、その事例、生徒による質問と教師からの回答、生徒の提出した論述内容の分析、生徒の振り返りの結果など一連の授業の流れが紹介された。
- ・オンライン授業の収穫として、深い理解や表現が予想以上に出てきたこと、生徒の回答を共有することで孤立していた生徒たちが繋がりや様々な考えを持つ他者と学ぶことを実感しはじめたことなどが紹介された。



- ・課題として、この成果を対面授業で生かす方法や、生徒の提出した課題から逆に授業を構想できないかを考える事、オンラインに反応しなかった生徒への配慮の必要性があるとまとめられた。
- ・質疑では、対面授業になった時にどのように、オンラインの成果を生かしているのかという質問があり、8月末に実施した「紙上討論」の紹介があった。
- ・これは、グループであるテーマに関して、まず自分の意見を書き、それに関する問いを書かせて、次の生徒がそれをみて問いに対する回答と次の生徒への問いを書かせてゆくというスタイルの意見交換の方法である。この方式を行なっている金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から、ご自身が実践したクラス全員方式の「紙上討論」も紹介された。
- ・そのほか、オンラインによる学力差はどうなのかという質問があり、一方で深く学ぶ生徒がいても、他方でオンラインの自学自習に乗れない生徒への対応が大きな課題になることが共有された。

③中原啓太郎先生(中央大学附属横浜中学校・高等学校)から「中3オンライン授業(オンデマンド授業)」の報告をうけた。

- ・中三公民分野での政治学習部分で、Microsoft teams を使用して、課題指示・動画貼付・解答フォーム貼付などを行なって実施したオンデマンド授業の紹介である。
- ・生徒は教科書・資料集の該当ページを読み、動画(3分～5分程度)を見ることを、1コマ3・4回繰り返し、最後に formsで、一問一答、簡単な記述、長めの記述 を回答するものである。
- ・公民・現代社会は、資料などは、自分でネット環境を使いすぐに調べることができる。分かりにくいところは、何度でも見ることができるというメリットがあるためオンライン授業に向いているのではないかとまとめられた。
- ・オンライン授業の課題では、生徒への課題(宿題)が多くなりがちで、注意する必要があること、動画を開かない生徒への対応、レポートの意味が理解出来ない生徒や、締切遅れへの対応などがあるとのことである。
- ・質疑では、生徒の回答(三権のうち一番力があるのはどこか、その理由とともに述べなさい)をどう評価して、これからの授業につなげるかという問いに対しては、制度と実態のギャップをどう考えさせるか、本来どうあるべきかを次に考えさせるかたちでつなげたいとの回答があった。
- ・生徒の文章のなかでゆがみを持っていたり、間違っていたりしている生徒に対してどう修正するか、また、生徒の判断の根拠をもうすこし明確にできるかという質問には、立憲主義や国会・内閣・裁判所などの単元を教える中でさらに検討したいという回答があった。

④埜枝里子先生(都立農業高等学校)から、「ポストコロナの授業とは」の報告を受けた。

- ・勤務校で生徒の自宅でのICT環境から、休業中は紙ベースの課題方式をとったこと、対面授業がはじまってから、生徒に採ったアンケートから生徒は基本的に対面授業を望んでいるが、オンラインの補講や授業も望んでいる生徒がいることなどが紹介された。
- ・復活した対面授業では、オンライン授業そのものを教材とし、「学校において、オンライン環境が整っていない生徒がいる状況でオンライン授業をすべきか否か?」という問いを設定した生徒は、8:2でオンライン授業を実施しないことに賛成。学習環境の違いによる学びの格差に疑問を持っていることなどが紹介された。
- ・今後、オンライン、オフライン授業など多様な学びが普及していく中でポイントになってくるのは「評価」の問題であり、知識、理解、思考・判断・表現力等などは考査や生徒のリアペなどから評価可能であるが、学びに向かう力、主体性等に関してはどのように評価するか、さらに検討が必要とも指摘された。



- ・質疑では、学びに向かう力、主体性等をどう評価するかが複数の参加者から話題にされた。「生徒ののび」で判断するという見解と、「生徒ののび」でみるのは危険でないかという意見がだされた。また、どのような判断の基準をつくるのか、授業のなかでの問いの立て方や教師の授業の回収の仕方、教師の教材観によって評価の違いがでてくるのではないかという指摘もあった。
- ・教師の生徒への評価だけでなく、生徒の自己評価もみなければいけないという指摘もされた。
- ・オンライン授業での評価問題は、ポストコロナのICTがさらに推進されるなかで、教師にとってのプラス・マイナス、生徒にとってのプラス・マイナスの両面から検討される必要があるということで、今後の部会でさらに討議を続けることで了解された。

⑤新井が準備した「70歳、中学生に経済を教える」ver.2は時間の関係で、資料配付だけとなった。

(3)その他連絡があった。

- ・中沖栄氏(清水書院)から教材の改定に際してネットワークメンバーへの協力要請があったことが紹介された。
- ・鈴木深氏(東京証券取引所)からは、東証の現在の状況(見学、対外的に参加者を募るセミナーなどの休止が続いている)の説明があった。

(4)全体として

- ・東京、大阪の合同部会に近い規模での実施となった。今後、zoomでの部会の場合は、地域限定ではなく、広くメンバーに参加の呼びかけをすることを検討することになった。
- ・さしあたり、札幌部会、大阪部会に関してはひろく呼びかけをする予定。

(以上、記録と文責:新井)

<input type="checkbox"/> テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	<input type="checkbox"/> 新聞教材(NIE)
--	--	--	---	------------------------------------

次回開催予定: 2020年10月24日(土)時間:15時00分~17時00分、慶應義塾大学三田キャンパス(教室などは未定)

議題 : 「問いの立て方、深め方、評価方法などの検討、および参加者による授業提案」